

# くらしき まち歩き さと歩き マップ



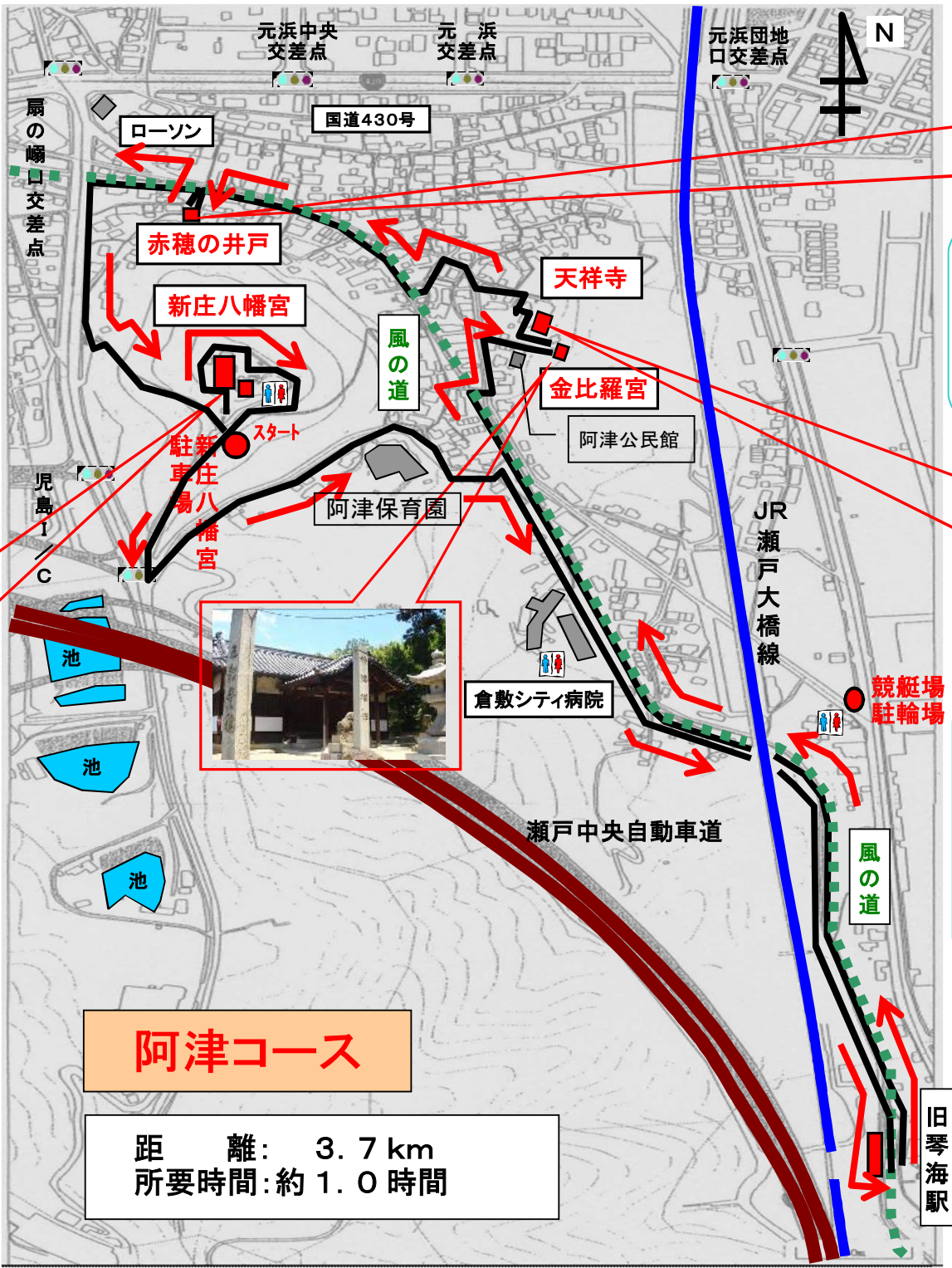
倉敷市  
児島地区  
赤崎地区

作成：赤崎地区愛育委員会  
協力：赤崎地区社会福祉協議会  
発行：倉敷市（平成24年7月改訂）



**新庄八幡宮**

参道入口に、天保11年(1840)氏子寄進の大鳥居と、嘉永元年(1848)銘の燈籠が一对。さらに進むと、明治36年(1903)野崎武吉郎の寄進の「天壤無窮帝之則」「春秋匪懈降民之哀」の大きいしめ柱。天皇を尊敬し祭りを怠らなければ神が人々に恩恵を与えると述べる。書は巖谷修(号は一六)。隨身門を抜けて石段を上ると拝殿。銅板葺き、檜造り、曲線の見事な唐破風の向拝を持つ。本殿は緑の森を背に姿をみせる。銅板葺きの屋根に千鳥破風を飾る。総構造り。祭神は応神天皇、仲哀天皇、神功皇后ほか2柱。新庄八幡宮は、大宝元年(701)宇佐八幡宮より迎えたという。平成に入り、1億7000万円の巨費を投じて大修築を行った。



## 阿津コース

距離： 3.7 km  
所要時間：約 1.0 時間



**赤穂の井戸**

元禄にお家断絶になった赤穂の浪人が製塩を志して阿津に移住してきた。当時は、井戸を掘っても塩分の多い水しかでなかったが、苦心の末、漸く真水の出る井戸を掘り当てた。以来、水道が通ずるまで地域の貴重な生活の水として利用されてきた。井戸の左奥に地藏堂。なかに錫杖、宝珠を手にした地藏菩薩。台石に享保12年(1727)の造立、16字の地藏を讀める文を刻む。



**天祥寺**

児島霊場第29番札所。天祥寺は禅宗の臨済宗の寺。白い長い塀に沿って進むと、豪華な山門の前に。そこに嘉永5年(1852)銘の地藏、嘉永2年銘「第二十九番」札所石がある。本堂は本瓦葺きの大きな屋根。平成21年の新築の木の香もゆかしい。本堂の中央祭壇には釈迦如来(本尊)と左右に阿難尊者、伽藍尊者の釈迦三尊まつる。本堂右脇に大師堂。薬師如来、弘法大師、閻魔大王を安置する。境内に洲脇家(富田屋)墓地があり、地藏堂、また墓碑が整然と並ぶ。なかに遭難の洲脇治兵衛と船子11人の墓碑があり哀れを誘っている。本寺の創建は弘長年間(1261~64)、あるいは天正年間(1573~92)、建立は寛永(1624~44)に富田屋洲脇伝右衛門によると伝えられている。

**金比羅宮**

額に「金比羅宮」とある鳥居から石段を上がる。拝殿の前には燈籠・唐獅子・しめ柱が並ぶ。なかに創立期の寛永(1624~44)に富田屋洲脇伝兵衛の建てた燈目をひく。拝殿は本瓦葺きで大棟、降り棟、隅棟の端と軒の丸瓦「富」の字がはいる。本殿は銅板葺き。随所に見事な彫刻(鳳凰・獅子・鷹・瑞雲など)を飾る。寛永19年(1642)に富田屋洲脇伝右衛門が讃岐から神を迎えた。



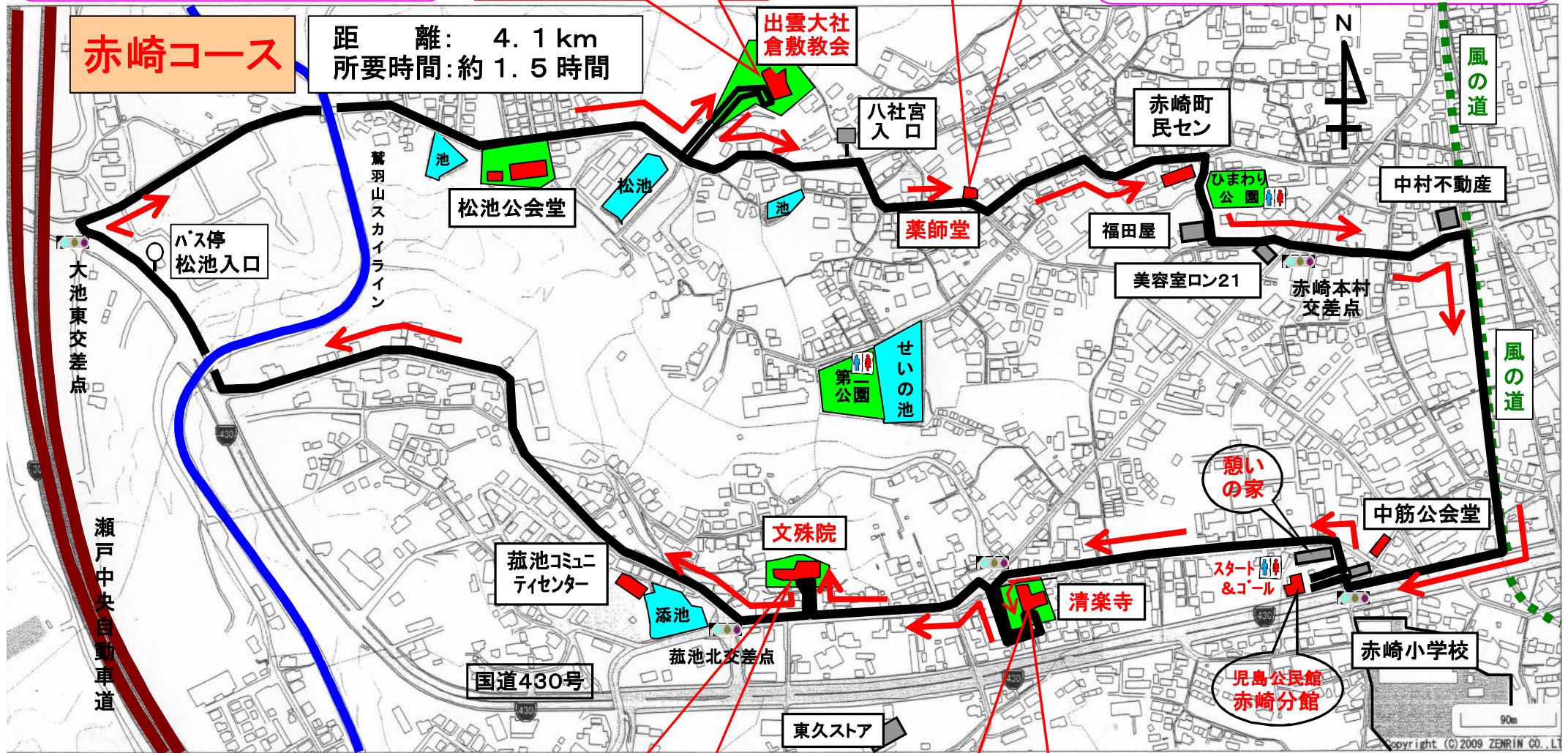
## 出雲大社倉敷教会

龍王山南麓の一角に、大きな屋根の左寄りに千鳥破風を飾る教会の建物。その南側に入口があり、向拝の軒下に大きなしめ縄を飾る。当教会は昭和60年(1985)11月、出雲大社児島教会から倉敷教会に昇格。昭和63年10月、児島小川から現在地に移転してきた。出雲大社(出雲市大社町)から祭神の大国主命を迎えた。命は少彦名命とともに国を営し、後に皇室の先祖に国を譲った。福の神、縁結びの神として信仰される。



## 薬師堂

堂の前に「児島西国第七番」の札所石。本堂は通夜堂を兼ね向拝付き。寄棟造りで椽瓦葺き。向拝軒下に「薬師堂」の額を掲げる。室内に本尊薬師如来をまつる。如来は人々の病苦などの苦しみから救い、身体的な欠陥を除く、医業の仏とされる。この薬師は目薬師という。祭壇には、ほかに弘法大師、大仙地藏(大山信仰)、如意輪観音(児島百観音西国第七番の本尊)をまつる。詠歌額も懸かる。薬師堂下の路傍に「打ち戻り」の道標。



## 文殊院

児島霊場第28番札所。参道入口に嘉永3年(1850)建立の札所石。参道の先に花崗岩を組み上に白壁の塀が左に延びる。山門を入ると鯉の彫物のある手水、弘法大師御遠忌記念の修行大師の像、明和5年(1768)3月銘の宝篋印塔が迎えてくれる。本堂正面には、釈迦如来(本尊)、文殊菩薩、普賢菩薩(以上は「釈迦三尊」)、不動明王、弘法大師をまつる。釈迦は今のネパール地方の城主の子として生まれた。29歳で出家、35歳で悟りを得、以来45年にわたりインド各地に布教。齢80歳で入滅した。なお、文殊菩薩は「3人寄れば文殊の知恵」といわれるように、知恵の菩薩として霊験や功德が人々の間に広まった。文殊院は応長年中(1311~12)に開山という。明治7年(1874)文殊院を借りて菰池小学開校。平成元年(1989)本堂・客殿を新築落成した。



## 清楽寺

浄土真宗興正派の寺。山門は境内南にあり、門を入ると、本堂の重量感溢れる大きな屋根が目に入る。大棟の中央に清、それに向かって2頭の龍、大棟の端に雄大な鬼板、ここにも清。薬寺にまつる仏は、阿弥陀如来、如来は光明と寿命の無量(計り知れない、無限)によるという。そして「南無阿弥陀仏」と称えるだけで極楽浄土に往生できると説く。さて、浄土真宗は鎌倉初期、親鸞の開いた。念仏を唱えれば誰でも極楽に往生でき、また悪人こそ阿弥陀仏の救済で往生の正機(教えを受けられる資格を持つ人)であると説く。山門を入るとすぐ左に、当寺創立に尽力した中村吉之介翁の胸像が建つ。銘に翁の発願により昭和2年より約8年の歳月をかけて昭和10年4月に寺は完成。昭和30年より浄土真宗の寺として新たな歩みを始めたことある。

